

＜研究成果の紹介＞

カキ「蓮台寺」の葉のアストラガリン含量と加工による影響

農業研究所 園芸研究課

1. 成果の内容

カキの葉にはアストラガリン等のフラボノイド類が含まれています。これらの成分は、花粉症やアトピー性皮膚炎等のアレルギー症状の緩和に有効であると研究報告され、注目を集め始めています。そこで、三重県伊勢志摩地域特産のカキ「蓮台寺」葉の採取時期、乾燥方法および加熱処理によるアストラガリン含量の違いを明らかにしたので、報告します。

- 1) 7月採取の幼葉には、成葉よりアストラガリン含量がやや多い傾向にありました(表1)。
- 2) 今回調査した中で最も早い7月に採取した成葉のアストラガリン含量は、それ以降の時期と同程度でした(図1)。
- 3) 葉粉末を水に混ぜて100℃・10分間したところ、アストラガリン含量は減少しませんでした(データ省略)。さらに、葉粉末を小麦粉ペーストに混ぜてオーブンで180℃・10分間加熱しても、アストラガリン含量は減少しませんでした(表2)。

2. 技術の適用効果と適用範囲

葉や葉粉末を生産・販売・加工する際に参考となります。

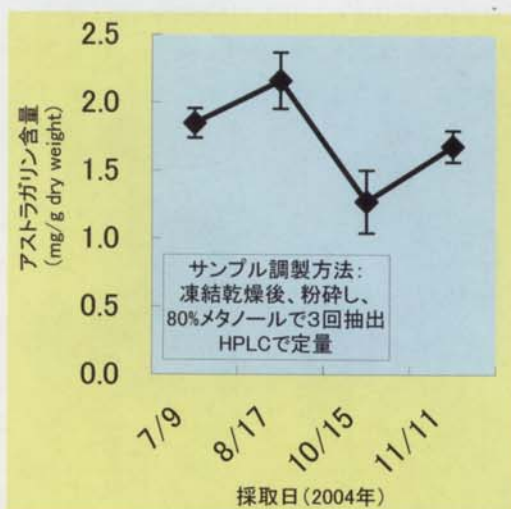


図1 カキ「蓮台寺」の成葉における時期別アストラガリン含量

3. 普及・利用上の注意と問題点

- 1) 農薬のドリフト問題等を考慮すると葉採取用樹には、農薬を使用しないか、葉専用園を設けて栽培するのが好ましい。
- 2) もし、農薬を使用する場合には、以下の点に注意する。
 - ①「カキの葉」は、農薬取締法上では「野菜類」に分類されているので、「野菜類」に登録のある農薬を使用する。
 - ②果実と葉の両方を出荷・販売する場合は「カキ」と「野菜類」に登録されているものを選択する。
- 3) 葉粉末は農薬を使用の有無に関係なく、残留農薬等の検査を行うのが望ましい。
- 4) 葉粉末は使用量が多いと苦味が強く、過剰摂取となる可能性もあるので注意する。
- 5) 今回の結果は、蓮台寺柿の葉のアストラガリン含量を保証するものではありません。

(現伊賀農業研究室 三井 友宏)

表1 カキ「蓮台寺」の幼葉および成葉におけるアストラガリン含量(2004年7月採取)

種類	アストラガリン含量 (mg/g dry weight)
幼葉	1.67 ± 0.32
成葉	1.44 ± 0.03

注1) 1処理2反復

注2) サンプルは採取後、凍結乾燥し粉碎した
注3) 図1と同時期に同様の方法で抽出・定量した

表2 カキ「蓮台寺」通風乾燥葉粉末の小麦粉ペーストへの混合時における加熱処理がアストラガリン含量に及ぼす影響(2005年7月採取)

処理	アストラガリン含量 (mg/g dry weight)
180℃10分	0.30
無加熱10分	0.32
有意差	n.s.

注1) サンプルには、幼葉・成葉混合粉末を使用した

注2) 有意差はt検定により判定した

注3) 小麦粉ペーストは葉粉末と小麦粉を1:2で混合し、水に溶解後、ペースト状に調製した

注4) サンプルは処理後、図1と同様の方法で抽出・定量した